

本報告書は、教学マネジメント委員会が策定した「3つのポリシー」に関するアセスメントポリシー（2021年版）に基づいて、教学マネジメント委員会 IR 部門が 2020 年度の各種データを収集、分析、検証した結果をまとめたものである。収集した主なデータは、学則、キャンパスガイド、大学案内、入学者募集要項、ホームページ、授業評価、学生調査（2020.12 実施）、累積 GPA、成績評価、退学率、留年率である。

検証は、要約した所見（データに基づく事実の認識）を記載し、必要に応じてアセスメント（評価、解釈）とアクション（改善案）を追記した。アクションの立案に当たっては、私立大学等経常費補助金の「教育の質に係る客観的指標」及び文部科学省の「改革総合支援事業評価基準」を参考にした。

1. 今年度（2021年度）の重点取組課題

(1) DP・CP に関する重点取組課題

重点取組課題	アクション	担当部署
シラバス	・教学マネジメント委員会は、シラバスチェックの実施手順を作成・周知し、実施結果を把握する。	教学マネジメント委員会
授業改善	・学生の積極性、主体的学習行動を促進し、教室を活性化する教育方法に関する FD を企画・実施する。	教学マネジメント委員会
学習成果	・DP 別客観的学習成果の到達度を測定・評価する方法を検討する。	IR 部門
入試の採点結果の分析	・2022 年度入試終了後、データの収集・分析を行う。	IR 部門
卒業生調査 就職先調査	・卒業生及び主な就職先を対象にした調査を実施する。 ・就職先を対象にした調査項目の例示： 定着度：「本学の卒業生で、3 年以内の離職はありましたか」 貢献度：「本学の卒業生は、貴施設の業務に貢献していますか」 積極性：「本学の卒業生は、与えられた業務に対して積極的に取り組んでいますか」 主体性：「本学の卒業生は、業務上の課題発見や問題解決に主体的に取り組んでいますか」 満足度：「本学の卒業生を採用したことに満足していますか」	学生生活委員会 学生課、就職課

2. 昨年度（2020年度）の重点取組課題の達成状況

重点取組課題	アクション	達成状況
3つのポリシーの周知	<ul style="list-style-type: none"> 各学科は、オリエンテーションだけでなく、初年次教育に相当する授業科目等で大学での勉強方法を説明する際に、「3つのポリシー」の意義（本学教育の設計図であること、学習のロードマップであること、卒業時の到達目標であることなど）を説明する機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生調査による DP・CP の認知度が大幅に上昇した。
ナンバリングとカリキュラムマップ	<ul style="list-style-type: none"> 短大の開講科目についてナンバリングを行い、DP と開講科目群の関係を明示するカリキュラムマップを作成し、2021 年度版ガイドブックに記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り達成した。
キャップ制度	<ul style="list-style-type: none"> 短大のキャップ制度について、2021 年度の導入に向けて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 検討の結果、導入を見送ったことから、キャップ制度に変わる学修の質を担保する措置を定める必要がある。
GPA 制度	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者への学習指導も含めて、GPA による指導対象者の抽出、指導手順、指導記録、退学勧告に至る基準、手続き等を明文化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り達成した。
シラバス	<ul style="list-style-type: none"> 教学マネジメント委員会は、シラバスチェックの実施手順を作成・周知し、実施結果を把握する。 主体的な自己学習を促すシラバスの作成方法に関する FD を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスチェックの実施状況と実施結果を把握できていない。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 学生の積極性、主体的学習行動を促進し、教室を活性化させる教育方法に関する FD を企画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育改善に関する FD を実施した
学習成果	<ul style="list-style-type: none"> DP 別客観的学習成果の到達度を測定・評価する方法を確立する。 国家試験合格率を上昇させるための対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的学習成果を測定・評価する方法の開発が遅れている。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の改善に関する学生の要望を聞き、可能なものから改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学内の WiFi 環境を改善した。
入試の採点基準	<ul style="list-style-type: none"> 各選抜方法の評価基準をあらかじめ明文化し、評価者間の共通認識を形成して入試を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り達成した。
入試の採点結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> 2021 年度入試終了後、データの収集・分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> データを収集したが、分析できていない。
入学後の追跡調査	<ul style="list-style-type: none"> 入試区分別の GPA の推移を把握する。 入試区分別の GPA の推移などの入学後の学業の状況とリンクさせて分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試区分別、学年別のデータを把握した。
卒業後の追跡調査	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生及び主な就職先を対象にした調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施できていない
アセスメントの実施時期	<ul style="list-style-type: none"> 2021 年度入試の評価を 2～3 月に実施し、改善点を 2022 年度入試または 2023 年度入試に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価時期が 5～6 月に遅れた。

3. ディプロマポリシー（DP）とカリキュラムポリシー（CP）の検証

(1) DP、CP の策定・公表・周知

1) DP・CP を策定している。

所見	・大学及び全学部・学科で策定していることを確認した。
----	----------------------------

2) DP は、各学部・学科の教育目標を具体的能力として適切に表現している。

所見	<p>・2019年、教育理念、建学の精神、教育目的、教育目標、ディプロマポリシーの定義を以下の通り定めて見直しを行った。</p> <p>教育理念：大学・短期大学部が、その使命（人材の育成）を達成するための理念・行動指針を記載したもので、建学の精神を含む。学則第1条で記載する。</p> <p>教育目的：大学・短期大学が育成する具体的な人材像を記載したもので、学則第1条で記載する。</p> <p>教育目標：教育目的で記載している人材育成を達成するために涵養・育成が必要な具体的能力（知識、技術、態度のブレイクダウン）を、「・・・する態度を涵養する」、「・・・する力を育成する」など、大学を主語（本文では省略）として記載する。内容は「教育目的」をブレイクダウンしたものであり、かつ、「ディプロマポリシー」を実現するための基本方針になっているものによって、一貫性を確保する。</p> <p>ディプロマポリシー：教育目標で示した到達目標を、学生が卒業時に身に付けるべき具体的能力（知識、技術、態度など）を、学生を主語（本文では省略）として記載する。</p> <p>・見直し結果は、2020年度以降のキャンパスガイドに反映させており、内容も適切であることを確認した。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3) CP は、DP と整合性がとれている。

所見	・全学科で開講科目のナンバリングとカリキュラムマップを作成する過程でカリキュラムの体系性（DPとの関係）と順次性（学年進行）を検証し、適切であることを確認した。
----	----------------------------------------------------------------------------------

4) DP・CP を公表している。

所見	・DP・CPは、2021年度版キャンパスガイド、2022年版大学案内、ホームページに掲載し、公表している。
----	-------------------------------------------------------

5) DP・CP を在学生に周知している。

所見	<p>・昨年の学生調査の結果に比べて「とてもそう思う」と「そう思う」と回答したものの割合が増加した。</p> <p>「建学の精神」41.1→50.5%、「DP」18.5→38.2%、「CP」24.6→48.1%</p>
アセスメント	・入学時から機会をとらえてDP、CPについて説明していることの効果表れている。

(2) 管理・運営体制

1) 教学マネジメント委員会に学外者及び学生が参加している。

所見	・新型コロナウイルス感染症のため、学外者及び学生が参加する会議を開催できなかった。
----	-------------------------------------------

2) 教学マネジメント委員会を年2回開催している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、3回開催した。 第1回 5/7 2020年版アセスメントポリシーを作成 第2回 8/6 DP、CPに関するアセスメント報告書を作成 第3回 10/1 APに関するアセスメント報告書を作成
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3) 履修単位上限（キャップ制）を設定している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 大学では、履修登録単位の上限設定及びGPA値による上限の緩和を設定している。 短大では、キャップ制度について検討した結果、上限設定を導入しないことを決めている。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> キャップ制度は学修の質を担保するための制度であることから、キャップ制度を導入しない場合は、それに代わる措置を定めておく必要がある。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> 短大は、キャップ制度に代わる学修の質を担保する方策を明文化する。

4) GPAを履修指導に活用している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度版キャンパスガイドに以下の文章を掲載し、GPAの活用について学生に周知している。 <u>「GPAは、成績不振者への学習指導、課程選択（保健師課程など）に必要な成績水準、各種奨学金の申請や就職推薦卒などの選抜に必要な成績水準、キャップ制度の上限緩和の基準、退学勧告などに利用します。」</u> 2/22の教務委員会で「GPAに基づいた学生指導について」を取りまとめ、具体的な活用方法について教員に周知している。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 教育の実施

1) 全開講科目のシラバスを作成し、公表している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> シラバス作成要領を作成し、実務経験、毎回の授業担当者、ナンバリングなど記載が義務付けられている項目の記載方法を周知している。 作成したシラバスは、ホームページで公表している。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2) シラバスの内容をチェックし、改善のための指導を行っている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> シラバスチェックの実施状況と実施結果の把握は出来ていない。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> 教学マネジメント委員会は、シラバスチェックの実施手順を作成・周知し、実施結果を把握する。

3) 教員は、シラバスに基づいて授業を実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の学生調査の結果に比べて「とてもそう思う」と「そう思う」と回答したものの割合は、 「授業はシラバスに沿って行われている」では、90.4→87.7%であった。 「シラバスは予習・復習の参考になっている」では、71.7→73.6%であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> シラバスが予習・復習など学生の自己学習を促す手段として十分に活用されているとは言えない。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な自己学習を促すシラバスの作成方法を記載した「シラバス作成要領」を作成して全教員に配布する。

4) 教員は、適切な授業改善の手立てを実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の学生調査の結果に比べて「とてもそう思う」、「そう思う」と回答したものの割合が60%台から70%に上昇した項目は、以下の3項目であった。 「レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している」62.3→77.5% 「授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている」65.5→71.9% 「学生の意見を授業改善に取り入れている」65.0→70.9% ・ 「学生が理解しやすい授業方法を工夫している」(79.8→77.8%)、「学生の理解度に合わせた授業を行っている」(75.0→72.8%)の2項目は昨年と同様70%台であった。 ・ 授業評価の結果では、全体で前期3.18から後期3.29と後期の評価が高かった。2019年全体の平均が3.32であったことから今年度、特に前期の評価が低かった。 ・ 満足度についてみると2020年前期3.21、後期3.31、2019年3.36と低い評価であった。 ・ 項目別にみると前期・後期ともに「この授業で学んだことは、あなたの将来の職業に役立つと思いますか」が上位1位であり、下位の3項目は「課題(レポート、予習、復習)の量は適切でしたか」「この授業の難易度は適切でしたか」「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか」であった。 ・ 前期に対して後期の評価の上昇幅がもっとも大きかった項目は「この授業に興味を持って取り組みましたか」(2.9→3.21)であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で始めた遠隔授業に対する厳しい学生の評価であると考えられる。 ・ 後期に評価がやや改善したことは、対面授業の増加を反映している。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学においては、基本的に対面授業を重視し、コロナ禍などやむおえない事情がない限り、安易に遠隔授業を導入することがないようにする。

(4) 主観的学習成果(到達度、満足度)

1) 学生は、主体的に学習している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的・主体的学習行動に関する質問で、「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した者の割合は、昨年に比べて増加した。 「授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する」75.3→81.2%、 「疑問に思ったことは、授業中に質問する」31.2→37.7%、 「疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く」は48.3→57.0%であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により制限された学習環境のため、返って主体的に学習することを意識した結果と考えられる。 ・ この経験を、平常時の授業の工夫に活かすために教員間で授業のノウハウを共有する取り組みが必要である。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の積極性、主体的学習行動を促進し、教室を活性化する教育方法に関するFDを企画・実施する。

2) 学生は、十分な学習時間を確保している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習時間は、大幅に延長した。 「遠隔授業の受講と課題提出に費やした時間」5.2時間/週 「対面授業の課題やレポート作成に費やした時間」5.4時間/週 「資格免許取得のための時間」は2.6時間/週 合計13.2時間/週(昨年8.1時間/週)
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習時間の延長の要因は、遠隔授業の実施にあると考えられる。

3) 学生は、自己の成長を実感している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 主観的学習成果について昨年とほぼ同様な結果であった。 自己評価が60%台に留まったのは「自分の意見を分かりやすく伝える力」であった。 	
大学のDP区分	短大のDP区分	学生調査の質問項目（「かなり身に付いた」「ある程度身に付いた」を合わせた割合%）
人への関心と学問の理解	知識・理解	「幅広い知識技術」81.0→79.2% 「専門分野の知識技術」84.6→83.7%
柔軟な思考と表現力	汎用的技能	「物事を論理的に考える習慣」70.3→74.9% 「物事を様々な視点から考える習慣」77.7→80.4% 「多様な知識・技術を総合して判断する力」74.6→78.4% 「自分の意見を分かりやすく伝える力」67.5→68.2% 「相手の意見を丁寧に聞く態度」89.0→90.7%
知識の応用力と判断力	総合的な学習経験と創造的思考力	「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」74.2→78.1% 「問題点が生じたときに、適切に対処する力」73.0→73.4%
未知の領域に挑む意欲	態度・志向性	「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」76.6→75.9%
地域に貢献する積極的姿勢		「積極的に人とかかわる態度」79.8→79.7% 「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」71.3→76.0%
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 相対的に自己評価が高い項目は知識・技術の獲得であり、自己評価の低い項目は「自分の意見を分かりやすく伝える力」であった。DPの達成度としては、「知識・技術をしっかりと身に付け、柔軟な思考や応用力はある程度身に付いたと感じ、新しいことに挑戦し、地域に貢献する意欲もある程度持っているが、それを人に伝える表現力に自信がない」という学生像が窺える。 	
アクション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の意見を人に伝える経験をする機会をつくる。 	

4) 学生は、自己の学習成果に満足している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の学生調査の結果に比べて、満足度に関する質問について、「とても満足している」、「ある程度満足している」と回答したものの割合は、やや増加していた。 「教員と学生の一般的な人間関係」78.5→82.0% 「教務課の窓口対応」77.5→87.4% 「学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応」86.1→88.7% 「保健室・心理相談など相談サービス」88.4→92.5% 「本学での学生生活全般」71.3→74.5%
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 客観的学習成果到達度

1) 学生は、DPで想定している能力を身に付けている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 国家試験合格率は、社会福祉士が増加した。 看護師88.2→88.3%、保健師100→100% 社会福祉士33.3→60.0%、精神保健福祉士100→100%であった。
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> DP別客観的学習成果の到達度を測定・評価する方法の開発が遅れている。 卒業生調査、卒業生就職先調査が実施できていない。
アクション	<ul style="list-style-type: none"> DP別客観的学習成果の到達度を測定・評価する方法を確立する。 例) 学生レベルの到達度の測定・評価→DP別科目群の個人の成績の平均値 授業レベルの到達度の測定・評価→各科目別の成績の平均値 学部・大学レベルの測定・評価→DP別科目群の全体の成績の平均値 国家試験合格率を上昇させるための対策を実施する。 卒業生調査、卒業生就職先調査を実施する。

2) 教員は、適切な成績評価を実施している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価の分布（昨年）は、昨年と同様であった。 大学 秀 26.5% (23.1%)、優 33.3% (33.2%)、良 23.2% (25.5%)、 可 15.8% (17.2%)、不可 1.1% (1.0%) 短大 秀 22.2% (17.1%)、優 29.7% (30.8%)、良 27.0% (29.7%) 可 20.0% (21.4%)、不可 1.1% (1.1%)
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 概ね、適切な成績評価が行われている。

(6) 遠隔授業に関する質問

所見	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業の課題と量については、50.8%が「多かった」と回答した。 遠隔授業の難易度については、41.6%が「難しかった」と回答した。 全体の満足度に比較して、遠隔授業の満足度は「とても満足」(13.2→13.7%)は同等であったが、「ある程度満足」(61.2→38.1%)が減少し、「あまり満足していない」(20.0→32.0%)「全く満足していない」(5.7→16.2%)が増加した。 遠隔授業を受講するために使用した機器は、スマートフォンが 50.1%ともっとも多く、次いで自宅のパソコンが 44.1%であった。大学のパソコンは 2.0%にとどまった。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. アドミッションポリシー (AP) の検証

(1) AP の策定・公表

1) AP は、DP に記載している能力を身に付ける前提として求める学習成果を明示している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 全学科で求める学習成果を明示していることを確認した。
----	------------------------------------------------------------------------------

2) 学習成果は、「学力の3要素」に対応している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 全学科で「学力の三要素」に対応していることを確認した。
----	-------------------------------------------------------------------------------

3) AP を、公表している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、入学者募集要項、大学案内、キャンパスガイドに記載し、公表している。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 選抜方法

1) 多様な背景を持つ学生の受け入れる入試区分を設けている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 2021 年度入試では、学校推薦型入試（指定校、公募制）、一般選抜入試、総合型選抜入試、社会人特別入試、帰国子女入試、外国人入試などの入試区分を設け、多様な背景をもつ学生の受け入れに対応している。また、短大では専門実践教育訓練給付制度の教育訓練施設として指定され、社会人学生を受け入れている。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2) 各入試区分の選抜方法は、「学力の3要素」を多面的に評価する選考方法を採用している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> 選抜方法として学力試験、大学入学共通テスト、口頭試問、小論文、プレゼンテーション、面接、調査書などを採用し、入試区分ごとにこれらの方法を組み合わせて「学力の3要素」を総合的に評価している。 2021 年度入学者募集要項では、各入試区分における選抜方法の組み合わせと「学力の3つの要素」の関係を掲載している。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 採点基準

1) 採点基準（ルーブリックなど）を作成している。

所見	・全学科で採点基準をあらかじめ作成している。（2021年度入試）				
		面接	プレゼンテーション	小論文	調査書
	心理学部	○	○	○	○
	人間健康学部	○	○	○	○
	保育学科	○	○	○	○
食物栄養学科	○	○	○	○	

2) 採点基準は、各選考方法に対応する学力の到達度（学習成果）を評価するものになっている。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの評価基準は、高校生活学んだことは何か、高校生活で学んだことを入学後どのように活かすかについて発表し、その内容、発表方法、表現力を評価するものになっている。 ・面接の評価基準は、志望動機、積極性、協調性、責任感、表現力、コミュニケーション能力など観点を設定して質問項目を設定している。
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3) 採点者による極端なバラツキや偏りが無い。

所見	・データの収集・分析ができていない。
アセスメント	・データの収集・分析は入試の精度の向上に不可欠である。
アクション	・2022年度入試終了後、データの収集・分析を行う。

(4) 入学前教育

1) すべての入試区分で、入学予定者に対して入学前教育を実施している。

所見	・全学科が、すべての入試区分で入学前教育を実施したことを確認した。
----	-----------------------------------

2) すべての入試区分で、入学前教育の課題の提出を義務付けている。

所見	・全員に課題の提出を義務付け、提出率は100%であった。
----	------------------------------

(5) 入学後の追跡調査

1) 入試区分別に、留年・退学の動向を把握している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（2014～2017年度入学生の卒業時の動向） 全体では、退学率6.0%、留年率3.3%であった。 入試区分別では、退学率はA日程（11.1%）とB日程（8.7%）が高かった。 留年率は指定校（4.8%）、推薦Ⅰ（5.1%）、B日程（4.4%）が高かった。 ・短大の2016～2019年度入学生 全体では、退学率10.2%、留年率0.8%であった。 入試区分別では、退学率は推薦Ⅰ（28.1%）、A0入試（28.0%）、A0社会人（20.0%）が高かった。留年率は推薦Ⅱ（25.0%）が高かった。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2) 入試区分別に、学年進行に伴うGPAの推移を把握している。

所見	<ul style="list-style-type: none"> ・大学全体の平均値は2.69、短大全体の平均値は2.45であった。 ・学年による違いは小さかった。 ・入試区分別では、A日程、指定校、センター試験で高く、A0、推薦Ⅰで低い傾向があった。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(6) 卒業後の追跡調査

所見	・実施できていない。
アクション	・卒業生及び主な就職先を対象にした調査を、毎年度実施する。 ・就職先を対象にした調査項目の例示： 定着度：「本学の卒業生で、3年以内の離職はありましたか」 貢献度：「本学の卒業生は、貴施設の業務に貢献していますか」 積極性：「本学の卒業生は、与えられた業務に対して積極的に取り組んでいますか」 主体性：「本学の卒業生は、業務上の課題発見や問題解決に主体的に取り組んでいますか」 満足度：「本学の卒業生を採用したことに満足していますか」

以上

資料編

I. 学生調査 (2020年12月実施)

1. 基本属性

回答者数 400人、回収率 64.2%

学科構成 福祉心理学科 (2~4年) + 心理学科 (1年) 85人、看護学科 198人、保育学科 46人、食物栄養学科 62人

学年構成 1年生 36.5%、2年生 38.5%、3年生 15.5%、4年生 7.3%、大学院 2.3%

2. 授業に関する質問

(1) 3つのポリシーの認知度に関する質問 (「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた割合 (%))

問4 建学の精神を知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体 (前年)
福祉心理・心理学科	54.8	26.3	42.9	50.0	50.5 (41.1)
看護学科	51.9	71.4	62.5	63.2	
保育学科	23.1	20.0			
食物栄養学科	41.7	26.3			
大学院	100.0	75.0			

問5 ディプロマポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体 (前年)
福祉心理・心理学科	54.8	21.1	28.6	30.0	38.2 (18.5)
看護学科	35.2	55.3	54.2	36.8	
保育学科	34.6	20.0			
食物栄養学科	20.8	10.8			
大学院	20.0	25.0			

問6 カリキュラムポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体 (前年)
福祉心理・心理学科	57.1	31.6	35.7	50.0	48.1 (24.6)
看護学科	50.0	59.2	62.5	52.6	
保育学科	34.6	25.0			
食物栄養学科	45.8	23.7			
大学院	40.0	100.0			

問7 アドミッションポリシーを知っている。

	1年	2年	3年	4年	全体 (前年)
福祉心理・心理学科	66.7	36.8	35.7	50.0	53.0 (30.4)
看護学科	66.7	71.4	60.4	57.9	
保育学科	38.5	25.0			
食物栄養学科	41.7	15.8			
大学院	60.0	50.0			

(2) 授業の実施状況に関する質問 (「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合 (%))

問8 授業はシラバスに沿って行われている。

	1年	2年	3年	4年	全体 (前年)
福祉心理・心理学科	78.6	78.9	71.4	90.0	87.7 (90.4)
看護学科	92.6	93.5	89.4	94.7	
保育学科	92.3	85.0			
食物栄養学科	91.3	81.6			
大学院	80.0	75.0			

問9 シラバスは予習・復習の参考になっている。

	1年	2年	3年	4年	全体 (前年)
福祉心理・心理学科	71.4	47.4	64.3	70.0	73.6 (71.7)
看護学科	72.2	83.1	78.7	89.5	
保育学科	69.2	65.0			
食物栄養学科	78.3	63.2			
大学院	100.0	75.0			

問 10 学生が理解しやすいように授業方法を工夫している。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	57.1	72.2	78.6	90.0	77.8 (79.8)
看護学科	72.2	77.9	78.7	94.7	
保育学科	80.8	85.0			
食物栄養学科	73.9	89.5			
大学院	100.0	100.0			

問 11 学生の理解度に合わせた授業を行っている。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	57.1	72.2	78.6	90.0	72.8 (75.0)
看護学科	72.2	77.9	78.7	94.7	
保育学科	76.9	90.0			
食物栄養学科	72.7	81.6			
大学院	100.0	75.0			

問 12 レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	61.9	68.4	57.1	60.0	77.5 (62.3)
看護学科	83.3	76.6	91.3	78.9	
保育学科	73.1	94.7			
食物栄養学科	73.9	78.9			
大学院	100.0	100.0			

問 13 授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	50.0	42.1	71.4	90.0	70.9 (65.5)
看護学科	74.1	70.1	76.6	73.7	
保育学科	69.2	82.4			
食物栄養学科	73.9	78.9			
大学院	100.0	100.0			

問 14 学生の意見を授業改善に取り入れている。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	59.5	36.8	64.3	80.0	71.9 (65.0)
看護学科	74.1	81.8	76.6	84.2	
保育学科	65.4	75.0			
食物栄養学科	73.9	68.4			
大学院	80.0	75.0			

3. 主体的学習行動に関する質問

(1) 授業以外の学習時間(1週間)に関する質問

問 15 (遠隔授業) 受講と課題提出に費やした時間

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	7.4	6.1	6.3	3.4	5.2
看護学科	8.0	5.5	4.6	3.6	
保育学科	2.8	2.3			
食物栄養学科	3.6	3.1			
大学院	11.0	3.5			

問 16 (対面授業) 課題やレポート作成に費やした時間

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	5.3	5.3	4.2	4.9	5.4 (3.8)
看護学科	7.3	6.6	5.6	4.8	
保育学科	3.9	2.6			
食物栄養学科	4.6	2.9			
大学院	11.0	6.8			

問 17 資格・免許取得のための学習時間

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	1.6	3.5	1.8	2.3	2.6 (2.5)
看護学科	2.7	1.8	2.4	9.1	
保育学科	2.2	2.6			
食物栄養学科	1.7	3.3			
大学院	0.9	1.0			

(2) 積極性・主体的学習行動に関する質問(「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合(%))

問 18 授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	68.3	52.6	64.3	70.0	81.2 (75.3)
看護学科	77.4	88.0	95.8	89.5	
保育学科	84.6	88.2			
食物栄養学科	75.0	86.8			
大学院	100.0	50.0			

問 19 疑問に思ったことは、授業中に質問する。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	19.0	36.8	42.9	40.0	37.7 (31.2)
看護学科	21.2	35.5	47.9	36.8	
保育学科	50.0	38.9			
食物栄養学科	37.5	55.3			
大学院	80.0	50.0			

問 20 疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く。

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	40.5	36.8	71.4	60.0	57.0 (48.3)
看護学科	51.9	53.2	68.8	57.9	
保育学科	57.7	83.3			
食物栄養学科	54.2	65.8			
大学院	100.0	25.0			

4. 主観的学習成果に関する質問(「かなり身に付いた」と「ある程度身に付いた」を合わせた割合(%))

問 21 幅広い知識・技術

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	59.5	52.6	85.7	100.0	79.2 (81.0)
看護学科	75.9	77.9	93.8	100.0	
保育学科	69.2	90.0			
食物栄養学科	75.0	89.5			
大学院	80.0	75.0			

問 22 専門分野の知識・技術

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	54.8	77.8	85.7	100.0	83.7 (84.6)
看護学科	79.6	85.7	91.7	100.0	
保育学科	84.6	95.0			
食物栄養学科	87.5	89.5			
大学院	80.0	75.0			

問 23 物事を論理的に考える習慣

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	57.1	68.4	85.7	90.0	74.9 (70.3)
看護学科	72.2	76.6	85.4	94.7	
保育学科	52.0	95.0			
食物栄養学科	66.7	75.7			
大学院	80.0	75.0			

問 25 多様な知識・技術を総合して判断する力

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	57.1	63.2	85.7	90.0	78.4 (74.6)
看護学科	72.2	75.3	93.8	100.0	
保育学科	80.8	95.0			
食物栄養学科	79.2	81.6			
大学院	50.0	75.0			

問 27 問題が生じたときに、適切に対処する力

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	57.1	68.4	71.4	90.0	73.4 (73.0)
看護学科	64.8	70.1	85.4	94.7	
保育学科	80.8	84.2			
食物栄養学科	58.3	84.2			
大学院	50.0	75.0			

問 29 相手の意見を丁寧に聞く態度

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	78.6	84.2	92.9	100.0	90.7 (89.0)
看護学科	94.3	89.6	93.6	100.0	
保育学科	80.8	94.7			
食物栄養学科	91.7	94.7			
大学院	100.0	100.0			

問 31 経験のないことでも積極的に挑戦する態度

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	52.4	42.1	71.4	60.0	75.9 (76.6)
看護学科	72.2	88.2	85.1	94.7	
保育学科	66.9	85.0			
食物栄養学科	66.7	89.5			
大学院	80.0	75.0			

問 24 物事を様々な視点から考える習慣

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	64.3	78.9	85.7	100.0	80.4 (77.7)
看護学科	77.4	81.8	87.5	94.7	
保育学科	73.1	95.0			
食物栄養学科	62.5	86.5			
大学院	75.0	75.0			

問 26 現状を分析し、問題点や課題を発見する力

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	64.3	68.4	92.9	90.0	78.1 (74.2)
看護学科	71.7	81.6	91.7	94.7	
保育学科	61.5	80.0			
食物栄養学科	70.8	78.9			
大学院	100.0	75.0			

問 28 自分の意見をわかりやすく伝える力

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	54.8	52.6	50.0	70.0	68.2 (67.5)
看護学科	64.8	66.2	83.3	89.5	
保育学科	60.0	70.0			
食物栄養学科	62.5	81.6			
大学院	80.0	75.0			

問 30 積極的に人とかかわる態度

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	47.6	63.2	85.7	60.0	79.7 (79.8)
看護学科	77.8	88.3	85.4	94.7	
保育学科	80.8	85.0			
食物栄養学科	79.2	91.9			
大学院	100.0	75.0			

問 32 将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度

	1年	2年	3年	4年	全体(前年)
福祉心理・心理学科	45.2	73.7	85.7	90.0	76.0 (71.3)
看護学科	77.4	79.2	81.3	100.0	
保育学科	68.0	70.0			
食物栄養学科	75.0	86.1			
大学院	80.0	75.0			

5. 満足度に関する質問（「とても満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合（%））

問 33 教員と学生の一般的な人間関係

	1年	2年	3年	4年	全体（前年）
福祉心理・心理学科	76.2	78.9	92.9	90.0	82.0 (78.5)
看護学科	81.1	70.1	81.3	100.0	
保育学科	76.9	95.0			
食物栄養学科	87.5	89.5			
大学院	100.0	100.0			

問 34 教務課の窓口対応

	1年	2年	3年	4年	全体（前年）
福祉心理・心理学科	85.4	89.5	85.7	100.0	87.4 (77.5)
看護学科	90.7	87.0	87.5	94.7	
保育学科	76.9	70.0			
食物栄養学科	100.0	89.5			
大学院	100.0	50.0			

問 35 学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応

	1年	2年	3年	4年	全体（前年）
福祉心理・心理学科	90.5	89.5	92.9	90.0	88.7 (86.1)
看護学科	92.6	89.6	85.4	100.0	
保育学科	88.5	65.0			
食物栄養学科	91.3	86.8			
大学院	100.0	75.0			

問 36 保健室・心理相談など相談サービス

	1年	2年	3年	4年	全体（前年）
福祉心理・心理学科	92.9	94.7	92.9	90.0	92.5 (88.4)
看護学科	92.6	94.8	87.5	100.0	
保育学科	88.0	75.0			
食物栄養学科	100.0	94.7			
大学院	100.0	100.0			

問 37 本学での学生生活全般

	1年	2年	3年	4年	全体（前年）
福祉心理・心理学科	64.3	57.9	78.6	80.0	74.5 (71.3)
看護学科	70.4	72.7	83.3	100.0	
保育学科	61.5	75.0			
食物栄養学科	75.0	84.2			
大学院	100.0	50.0			

6. 遠隔授業に関する質問

問 45、46 遠隔授業の課題の量と難易度

量			難易度		
多かった	適切だった	少なかった	難しかった	適切だった	易しかった
50.8%	49.0%	0.3%	41.6%	58.2%	0.3%

問 45 課題の量は適切でしたか。（「多かった」と回答した割合）

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	43.9	57.9	50.0	20.0	50.8
看護学科	61.1	67.5	35.4	0.0	
保育学科	52.0	75.0			
食物栄養学科	58.3	29.7			
大学院	100.0	50.0			

問 46 難易度は適切でしたか。（「難しかった」と回答した割合）

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	42.9	26.3	35.7	20.0	41.6
看護学科	66.7	48.1	31.3	5.9	
保育学科	40.0	60.0			
食物栄養学科	50.0	21.1			
大学院	40.0	50.0			

問 47 授業内容は理解できましたか。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	50.0	73.7	64.3	80.0	68.3
看護学科	63.0	71.4	72.9	94.1	
保育学科	76.0	60.0			
食物栄養学科	58.3	68.4			
大学院	100.0	75.0			

問 48 教員はレポートなどの提出物や質問に対してコメントを付けて返しましたか。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	75.6	84.2	64.3	60.0	77.0
看護学科	79.6	75.3	85.4	76.5	
保育学科	72.0	60.0			
食物栄養学科	79.2	78.9			
大学院	100.0	100.0			

問 49 遠隔授業に満足しましたか。

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	48.8	57.9	35.7	60.0	51.9
看護学科	66.7	58.4	45.8	64.3	
保育学科	48.0	15.0			
食物栄養学科	62.5	44.7			
大学院	40.0	25.0			

問 50 遠隔授業を受講するために主にスマートフォンを使用した人の割合 (%)

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	40.5	31.6	35.7	60.0	50.1
看護学科	31.5	57.1	64.6	73.3	
保育学科	64.0	65.0			
食物栄養学科	70.8	36.8			
大学院	0.0	25.0			

*満足度（遠隔（問 49）と全体（問 37）の比較）

	とても満足	ある程度満足	あまり満足していない	全く満足していない
遠隔	13.7%	38.1%	32.0%	16.2%
全体	13.2%	61.2%	20.0%	5.7%
昨年全体	12.4%	58.9%	22.6%	6.1%

問 50 遠隔授業を受講するために使用した機器はどれですか。

スマートフォン	タブレット	自宅のパソコン	大学のパソコン
50.1%	3.8%	44.1%	2.0%

問 50 遠隔授業を受講するために使用した機器はどれですか。（スマートフォンと回答した割合）

	1年	2年	3年	4年	全体
福祉心理・心理学科	40.5	31.6	35.7	60.0	50.1
看護学科	31.5	57.1	64.6	73.3	
保育学科	64.0	65.0			
食物栄養学科	70.8	36.8			
大学院	0.0	25.0			

II. 授業評価

1. 2020 年度前期開講科目（大学、短大、大学院）

- ・対象：Google Classroom®により授業評価アンケートを実施し、回答があった 161 科目（時間割表に基づく全開講科目の 62%）、のべ 4994 件を集計の対象とした。
- ・科目ごとの得点：以下の計算により、科目ごとの得点を算出した。（「回答しない」は得点の計算から除外した）

$$\text{得点} = (\text{「とてもそう思う」人数} \times 4 \text{点} + \text{「そう思う」人数} \times 3 \text{点} + \text{「そう思わない」人数} \times 2 \text{点} + \text{「全くそう思わない」人数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$
- ・科目ごとの得点の平均値と分布

カテゴリー	問	質問	平均値	パーセンタイル		
				25%	50%	75%
シラバスに関する質問	1	シラバスは授業の目標・内容・評価方法を分かりやすく示していましたか。	3.22	3.13	3.20	3.34
	2	授業内容はシラバスに沿ったものでしたか。	3.18	3.10	3.20	3.30
授業運営に関する質問	3	教材など、全体としてよく準備された授業でしたか。	3.24	3.10	3.22	3.40
	4	この授業の全体としての難易度は適切でしたか。	3.13	3.00	3.13	3.29
	5	課題（レポート、予習、復習）の量は適切でしたか。	3.14	3.00	3.17	3.26
教員に関する質問	6	教員の授業の進め方は学生の反応や理解度・達成度を配慮したものでしたか。	3.16	3.00	3.17	3.32
	7	教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか。	3.22	3.10	3.21	3.40
	8	教員は小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか。	3.16	3.00	3.17	3.32
主体的学習態度に関する質問	9	この授業中の内容に興味を持って取り組みましたか。	3.22	3.08	3.21	3.35
	10	質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。	2.90	2.71	2.99	3.10
	11	この分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。	3.20	3.04	3.19	3.30
満足度に関する質問	12	この授業で学んだことは、あなたの将来の職業に役立つと思いましたか。	3.31	3.16	3.31	3.46
	13	この授業は総合的にみて満足でしたか	3.21	3.07	3.21	3.33

・回答の分布（%）

回答	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13
とてもそう思う	22.7	22.2	26.9	20.7	21.8	22.3	25.1	23.5	24.4	17.1	23.9	31.4	24.8
そう思う	62.1	61.2	57.0	61.0	59.2	56.9	54.4	53.0	59.2	52.7	57.0	53.9	57.2
そう思わない	3.8	3.6	5.4	6.9	6.7	7.3	5.7	7.9	5.2	11.5	6.1	3.8	5.7
全くそう思わない	1.0	1.3	1.9	2.1	2.4	2.2	2.0	2.5	1.6	2.2	1.8	1.4	2.0
回答しない	10.5	11.7	8.8	9.3	9.9	11.3	12.8	13.2	9.5	16.6	11.1	9.5	10.3

2. 2020年度後期開講科目（大学、短大、大学院）

・対象：Google Classroom®により授業評価アンケートを実施し、回答があった97科目、2357件を集計の対象とした。

・科目ごとの得点：以下の計算により、科目ごとの得点を算出した。（「回答しない」は得点の計算から除外した）

$$\text{得点} = (\text{「とてもそう思う」人数} \times 4 \text{点} + \text{「そう思う」人数} \times 3 \text{点} + \text{「そう思わない」人数} \times 2 \text{点} + \text{「全くそう思わない」人数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

・科目ごとの得点の平均値と分布

カテゴリー	問	質問	平均値	パーセンタイル		
				25%	50%	75%
シラバスに関する質問	1	シラバスは授業の目標・内容・評価方法を分かりやすく示していましたか。	3.31	3.17	3.29	3.43
	2	授業内容はシラバスに沿ったものでしたか。	3.26	3.19	3.29	3.41
授業運営に関する質問	3	教材など、全体としてよく準備された授業でしたか。	3.32	3.16	3.33	3.50
	4	この授業の全体としての難易度は適切でしたか。	3.23	3.08	3.24	3.35
	5	課題（レポート、予習、復習）の量は適切でしたか。	3.25	3.11	3.25	3.40
教員に関する質問	6	教員の授業の進め方は学生の反応や理解度・達成度を配慮したものでしたか。	3.29	3.13	3.28	3.46
	7	教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか。	3.34	3.17	3.17	3.50
	8	教員は小テストやレポートなどを実施し、コメント等を返しましたか。	3.26	3.09	3.09	3.43
主体的学習態度に関する質問	9	この授業中の内容に興味を持って取り組みましたか。	3.33	3.17	3.17	3.46
	10	質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。	3.21	3.00	3.00	3.35
	11	この分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。	3.29	3.11	3.11	3.41
満足度に関する質問	12	この授業で学んだことは、あなたの将来の職業に役立つと思いましたか。	3.40	3.25	3.25	3.51
	13	この授業は総合的にみて満足でしたか	3.31	3.15	3.31	3.47

・回答の分布（%）

回答	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
とてもそう思う	28.3	27.7	32.7	24.9	25.8	29.2	32.1	29.6	31.8	26.9	31.1	40.5	31.9
そう思う	63.3	63.7	58.1	65.1	63.0	59.5	57.4	56.6	58.7	55.2	57.7	51.5	58.7
そう思わない	1.8	1.7	3.7	3.9	4.2	4.9	4.2	5.5	3.2	7.6	3.9	1.8	2.8
全くそう思わない	0.6	0.6	1.0	1.0	1.2	1.0	0.9	1.2	0.8	1.1	1.1	1.1	1.2
回答しない	5.9	6.4	4.5	5.2	5.8	5.4	5.4	7.2	5.6	9.2	6.2	5.1	5.5

Ⅲ. GPA の分布

	1年 平均値	2年 平均値	3年 平均値	4年 平均値	全体平均値 (昨年)		パーセンタイル		
							25%	50%	75%
福祉心理・心理学科	2.88	2.96	3.01	2.68	2.86 (2.82)	2.69	2.38	2.97	3.41
看護学科	2.78	2.70	2.46	2.42	2.60 (2.45)	(2.57)	2.2	2.65	3.00
保育学科	2.43	2.35			2.39 (2.29)	2.45	1.97	2.42	2.82
食物栄養学科	2.63	2.47			2.53 (2.46)	(2.39)	2.11	2.45	3.02

Ⅳ. 成績評価の分布 (2020年度前期・後期)

	大学 (%)		短期大学部 (%)	
	2020年度	2019年度	2020年度	2019年度
秀	26.5	23.1	22.2	17.1
優	33.3	33.2	29.7	30.8
良	23.2	25.5	27.0	29.7
可	15.8	17.2	20.0	21.4
不可	1.10	1.0	1.13	1.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0

Ⅴ. 国家試験合格率

	看護師	保健師	社会福祉士	精神保健福祉士
受験者数	60	12	5	3
合格者数	53	12	3	3
合格率 (%) (昨年)	88.3 (88.2)	100.0 (100.0)	60.0 (33.3)	100.0 (100.0)

VI. 選抜方法

1. 選抜方法と学力の3要素

(1) 大学（2021年度入学者募集要項）

	入試区分	選考方法	学部が求める知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度・協働性など	
学校推薦型選抜	指定校	プレゼンテーション		○		
		面接			○	
		調査書	○			
	公募制Ⅰ期 公募制Ⅱ期	小論文				
		面接		○		○
		調査書	○			
一般選抜	A日程 B日程	学力試験	○			
		面接		○	○	
		調査書	○			
		小論文	○			
大学入学共通テスト利用選抜	前期、中期、 後期	大学入学共通テスト	○			
		調査書	○	○	○	
総合型選抜		プレゼンテーション		○		
		面接				
		調査書	○			

(2) 短大（2021年度入学者募集要項）

	入試区分	選考方法	学部が求める知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度・協働性など
学校推薦型選抜	指定校	口頭試問	○		
		面接		○	
		調査書	○		○
	公募制	小論文	○	○	
		面接		○	
		調査書	○		○
一般選抜	A日程 B日程	学力試験	○		
		面接		○	
		調査書	○		○
総合型選抜		プレゼンテーション	○	○	
		面接			
		調査書	○		○

Ⅶ. 入学後の追跡調査

(1) 退学率、留年率

大学（2014～2017年度入学生の卒業時の集計）

	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	センター	A0	A0社会人	計
入学者数	1	145	39	14	99	23	98	27	5	451
退学者数	0	8	0	0	11	2	3	1	2	27
退学率(%)	0.0	5.5	0.0	0.0	11.1	8.7	3.1	3.7	40.0	6.0
留年者数	0	7	2	0	2	1	1	1	1	15
留年率(%)	0.0	4.8	5.1	0.0	2.0	4.35	1.0	3.7	20.0	3.3

短大（2016～2019年度入学生の卒業時の集計）

	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	C日程	A0	A0社会人	計
入学者数	123	141	32	4	12	4	27	25	5	373
退学者数	8	12	9	0	1	0	0	7	1	38
退学率(%)	6.5	8.5	28.1	0.0	8.3	0.0	0.0	28.0	20.0	10.2
留年者数	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3
留年率(%)	0.8	0.0	3.1	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8

(2) GPA（2020年度在学生）

福祉心理・心理学科	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	センター	A0	外国人	教養履修	全体
1年	—	2.70	2.48	3.49	3.02	—	3.29	2.32	1.79	3.56	2.88
2年	—	3.17	2.69	2.86	3.13	—	3.11	2.27	1.86	3.43	2.96
3年	—	2.89	2.41	2.68	3.15	3.45	3.11	1.82	—	3.44	3.01
4年	—	2.69	2.18	2.51	2.31	2.21	3.06	2.79	2.63	3.50	2.68
全体	—	2.88	2.54	2.68	2.87	2.83	3.09	2.37	2.32	3.45	2.86

看護学科	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	センター	A0	外国人	教養履修	全体
1年	—	2.76	2.95	2.56	3.12	—	2.56	2.14	—	—	2.78
2年	2.65	2.67	2.59	3.09	2.84	2.93	2.87	1.39	—	—	2.70
3年	—	2.41	1.88	2.22	2.69	1.96	2.70	2.24	—	—	2.46
4年	3.43	2.29	2.45	—	2.26	1.80	2.72	2.12	—	—	2.42
全体	3.04	2.56	2.48	2.74	2.78	2.16	2.73	2.04	—	—	2.60

保育学科	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	A0	全体
1年	2.69	—	1.73	—	—	3.50	—	2.51
2年	2.36	2.24	2.32	—	3.51	—	1.52	2.41
全体	2.50	2.24	1.88	—	3.51	3.50	1.52	2.45

食物栄養学科	香川特推	指定校	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ	A日程	B日程	A0	全体
1年	2.12	2.80	1.80	—	—	3.21	—	2.63
2年	2.58	2.26	1.49	2.89	3.44	—	1.98	2.47
全体	2.42	2.48	1.70	2.89	3.44	3.21	1.98	2.53

VIII. 就職率（2020年度卒業生）

	人間社会学部	人間健康学部	保育学科	食物栄養学科
就職率	91.7%	98.1%	100%	100%